



大  
通  
記  
山  
才

特別  
~ 13  
8639







音立山 詩文山 水山 山 山 山 山 山 山 山  
 五川山 色山 山 山 山 山 山 山 山 山

願で 唐禪ト 色山 紫山 物山 計七ト 知ト 八ト  
 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

初登山 婦山 笠澤山 正氣山 奴山 小見山 雲山  
 目録

學同寺ト むく山ト けろト 風山ト 天ト かけト かけト

花 乳 嘉 占 習 永  
沃 之 香 一 山 山 山  
山 山 山 山 山 山

佐 毛 巖  
文 山 山  
山 山 山

米 杉 蘇 滿 打 慶 氣  
米 杉 蘇 滿 打 慶 氣  
米 杉 蘇 滿 打 慶 氣

大 不 賢  
文 掃 親  
ト ト ト











かせ板より板を法りあふきた砂より行系氣にて  
小豆色に色を塗て天井より菊の形と彫り  
うし海の中をゆく年あつたけし海の中と白雪  
がとらふ程あつて一二とと九とを六高位の所より  
金箔多しこれより夏古用ゆらに隠居して目鏡を  
きつて後復しゆりうききるに後任者六行平の寺  
石風が吹す末阿平とよか刺整して山拂と号すけ  
寺へあつて二三子あちに檀香を進めてえいといと

建よりける板にさびさるる色す  
後より一後為丁如者あつてより福地より今ハ  
大寺といふ名あつてにむらきうていふ名ありは  
縁起より神名無氏の宗國をいけ末寺八五五と  
本寺にして一寺とあつて一心にああありは  
して是れより二又よりあつてはけ寺とあつては  
なり

寺 待山

寺 樹寺





神宮山

法也 水人香や

道明寺

け寺はむく 仙臺粉倍跡若新き耐世のきまけ  
世俗の温氣とたなげんと自うま日冷水と引り行  
とげそれより砂粒のうけ入道と心を合を汲みの水  
と浴く夏のうら杉の暑らと刈りて堂と建る能き  
と多に干後屋一程やらふそのけ寺の利をまふ  
二人の穿山と神とすけりる け寺いりて清きりて信の

ららまき切てふりまらるる西風せいと吹きてさも源  
しき倍紅の衣を著る一威儀よりして枕えとまきぞこ  
あひ歌はき西風和尚のけ寺今らんあまは我宗もさ  
びしきより報雷しきりてけしみを晴さんと空ひりも夏  
と西風のきくえいさるるあや

ぬがや山

紫檀寺

け寺八天智天皇の勅新唐してむし 和調子土依塚とふ  
法也 じんらん 西社

都令命を以て堂を慶業にして之の御座を  
 天神を法を崇り皇を皇人の神本を結棹を  
 棹を以てかひらるる人の堂より皇とら利を  
 与りしこもやあふ御座を御座とてつらめり  
 八乳より天壽年中二より三よりあ  
 本根の本を以て建之とて林とひく御座  
 三下りの一を以て御座を御座とて  
 神等が御座とて

山

物業寺

かんき寺

けてる尾寺にけのせき寺あり  
 かく物まにくめん御座あり  
 のあまをまら一人も御座あり  
 かく御座あり  
 ながーゆ御座あり



正風体 海合の道をもとまの志うまふ  
りしりて 炎さうりなるり子まふさうり  
えま流まかくたて東西のり  
けふまると物体まるとまかふまき人も行電  
行電とまつけて風体まるとまかふまき人も行電  
まるとまふさかんりて物体まるとまかふまき人も行電  
末寺より十いんとりま寺あり又まもどりま  
寺もありこれハ初人のくく物体まるとまかふまき人も行電

寺のくまを尾まるとまかふまき人も行電

月山

物田寺

まき

み穀をま

小百姓人の化

け寺の大社を稲を何あ社の内社にかい山  
ま農( ) 稲海のかいりりて地めん  
三百六十坪まらてりて灰粉めまらて  
地を( )とまらりてみ穀をま月をま

一宇とてしるす相ざんとす  
 けん神の所利をよき法堂の下書とす  
 ひとんとよのやせの敷くけいふて  
 も寺のけいせいにいよよよくよの  
 寺よりけん宗よりかきけんも徳人余  
 と法をよき宗門あり世俗初めの  
 十五日生延るとりよもけん寺よりけん  
 日照のせいの僧を雨とてとす

色越山

八色人寺

本寺  
 少職

寺をむよハとんとと急き宗門あり  
 境内ひらくく大門ありこれを大門口とす  
 町の南よりまがきとて并月天あり  
 寺よりまがきとて急き宗門あり  
 寺をむよハとんとと急き宗門あり



むうー大川おほがはもねおよくいいろろもものの出でるる会かい堂どう  
の系けい吉きち神かみ祇ぎのの伝でん人にん志し比ひもも田た村むらととりりふふ人にん  
ややももああままああららううててけけええれればば川がは一いつのの辺へにに人にん来き  
ままききええももああららうう聖せいととううりりぬぬががききああららうう系けい  
橋はしののくくままそそ大だい多たそそああららううととりりふふああららううここ  
四よッッ子こ細こととああららうう一いつれればばててんんととりりふふ大だい日にち主しゅ  
のの系けいととりりああげげるるそそれれ史しまま一いつ年ねん秋あきのの  
こころろ源げん本ほん流りゅうととりりああららううりりけけ源げんととりりふふ

ままるるけけ寺てら四よ月げつよりより八はち月げつまでまでままんんけけいい多たしし又また  
ににままじじののままいいととりりああららううままんんぢぢううととりりふふ  
せせりりうう跡あと之の十じゅう二に洞どうととりりふふ

駕か込こ山さん

廣ひろくく寺てら

ななまま

六む尺じやくのの也や像ざう

けけ寺てらののかかいい山さん阿あんん河が上じやう人にん过つがくく一いつ立たちちままいい  
ててややままけけんんここととりりああららうう文ぶんをを鳴なへへてて内ない子しとと持もち紐ひもと

くとつびりふしけ傍遊なんことあがけて  
 時く法ほう空くうよりふまふとにきりてこれとゆと  
 ことらふ。答て四しく。広ひろ去こふい。げんこ。なま  
 しく杖つえハ四よつよの行ぎやうとてハまん寺てらの大門だいもん  
 口くちまがまが行ぎやうをまじりてけし玉たまゆく杖つえハ人ひと積つみ  
 師しの声こゑまこころふ一いっつ子の啼なみと似にくうわうく  
 子こま一いっ法ほうとあつて川がはハかんむんとふふも  
 とる者もの七しち料りょうとふむむむらまひゆりて

占山

陰陽寺

占山

當卦 君佛  
 卦 君佛

日光月光の家あり

當寺たうてらのわの山やま伏ふし義ぎ上人じやうじんハ和わえの大だい禮らいあり  
 なるかの後のち又またこの宗しゆ門もんを結むすて伯やく乃の和わ尚じやう  
 のの實じつ基きよりててるる終はつへへハハ非ひ無む申まう

より志うるよ吉備のちどくし勅命ありて  
さんまめと本とを別て一宗とてえんり  
多つけておんやう寺とて後に周易和  
尚これし多事の元祖とてのち后備和尚  
唯智和尚とて多僧出てけ宗とて  
けう化し多後改易中上人易和  
尚とて人多僧とて多僧とて聖廟へ移む  
ときけてかんこん志んそんりこんだけん。

其ををとなくその地ち卜筮道中にふり  
ま寺とて末寺とてえんり  
をよむ祓けい。地をこのある人又ハ病人  
多人数木の祈願ふにして聖廟のやう  
け寺とてりる

まの二月出らりのころ  
け寺のふらふら  
らんけらる

山一山

まんごん寺

不<sup>えん</sup><sub>そ</sub>

大酒

北<sup>い</sup>の<sup>り</sup>

酒<sup>い</sup>の<sup>り</sup>の<sup>り</sup>

け宗<sup>い</sup>のかい<sup>い</sup>山<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>之<sup>ま</sup>列<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>け<sup>ま</sup>四<sup>ま</sup>の  
那<sup>い</sup>酒<sup>い</sup>村<sup>い</sup>か<sup>い</sup>寺<sup>い</sup>伊<sup>い</sup>丹<sup>い</sup>信<sup>い</sup>正<sup>い</sup>の<sup>い</sup>寺<sup>い</sup>子<sup>い</sup>

と<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>り<sup>い</sup>て<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>口<sup>い</sup>で<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>い<sup>い</sup>け<sup>い</sup>ば<sup>い</sup>そ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>う<sup>い</sup>  
ま<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>け<sup>い</sup>一<sup>い</sup>字<sup>い</sup>を<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>ア<sup>い</sup>一<sup>い</sup>一<sup>い</sup>  
ま<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>く<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>一<sup>い</sup>と<sup>い</sup>寺<sup>い</sup>一<sup>い</sup>酒<sup>い</sup>一<sup>い</sup>寺<sup>い</sup>の<sup>い</sup>  
末<sup>い</sup>寺<sup>い</sup>と<sup>い</sup>なる<sup>い</sup>そ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>妙<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>や<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>り<sup>い</sup>和<sup>い</sup>尚<sup>い</sup>  
と<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>り<sup>い</sup>て<sup>い</sup>後<sup>い</sup>任<sup>い</sup>一<sup>い</sup>七<sup>い</sup>年<sup>い</sup>始<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>  
信<sup>い</sup>心<sup>い</sup>の<sup>い</sup>り<sup>い</sup>く<sup>い</sup>一<sup>い</sup>と<sup>い</sup>心<sup>い</sup>に<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>く<sup>い</sup>







佐文山

大もん寺

本寺

弘法大師

小中道風化

さいふ

一好い化

冬候依理々筆

永字八法

播磨一好字

け寺のかい山寺いっどとえん為えん字年中のろ  
寺とえんハ分つろよえん一えん天満ふとえんは

し寺子寺号も大もん寺とえん後えんてえんい  
乃西えん子えんちえん信えん正えん圓えん親えん主えんの命えん  
すえん大えん新えん州えんのえんおえんこえんまえんいえん唐えんうえんうえんうえんうえんうえん  
いあり中古岡山えん廣えんは信えん正えん出えんまえんまえんしえん  
寺えん法えんをえんまえんまえんうえんげえんしえんのえんふえん函えん依えんのえんめえんんえんのえん中えん  
にもえん鳥えん石えん和えん尚えん指えんちえん千えん字えん文えんよえんくえんとえんまえんまえんふえん  
風えん呂えん和えん尚えん秋えん無えん八えん音えんをえんおえんしえんくえんふえん又えん龍えん湖えん  
信えん都えんハ大えん象えん小えんてえんんえんのえんおえんくえんまえんまえんとえんまえんまえんのえん

小まふまことしつりかき寺の末寺  
小まふ寺とらふちつり

此寺にて利生を得ると小法師と宗

嵐山

かゝ親寺

一里塚 梅玉宮

このてしあかい山ふりと和為九く九として  
天てん元げんの中ちゆうに地ちを部ぶきたち末とほも

つる割わりぐさき一字とらふ山号と入子

ふんと名な片ぺん等とう法ぽうと神しんと阿あんんちちとまり

その妙めうちち開かい平へい通とう中ちゆうののらら泉せん井い見けん一いつ

ふものていていららして八はち等とうとらふすふんふんと

杉すぎぶぶんんままここままんと部ぶ行ぎやう者しや部ぶしてややりり

と福ふく侶りよとちちるる縁えん記き田でん考かう

ふりくはけ寺のふりくはけ宗しゆ記きととふふりり

け寺の末寺よ 若師さん



花は山

米かき寺

結者

本の花は山や米かき寺

けてははけるかのむうしとすあびて洞と塔り  
て中よるを毎ふしよりて花は山  
米かき寺に米かき寺に米かき寺  
しと何とかがありて米かき寺の塔り  
と米かき寺の塔りに米かき寺の塔り

めうとよりて山花は山にけ寺にけとせ  
て法人のよまいのをたよりとせとせとせ不老  
不死の大やうやくもあづけて。と妙を  
ひよ世俗のひよもあづけてみるよよ又け宗  
引とり物て之困付まるとあびまの像  
とせんやうして一宗をとと。みか山花は  
ドとせ

三才の結一巻より六文の物



へうに

但しけりてんけんけいさる人じんき  
よひき人まゆくえりきくやい  
ましがありの口にて礼すてか  
このあり

とて  
戸はハ 白布二布にそかけ



45415

